SAPPORO ATHLETICS ASSOCIATION　通算第１１号（２０１８年第２号）

JAAF SAPPORO

一般財団法人札幌陸上競技協会

札幌陸協情報

発行：一般財団法人札幌陸上競技協会広報委員会　平成３０年１２月２日発行

２０１８年度を振り返って

会　長　品　田　吉　博

９月６日に発生した北海道胆振東部地震により、犠牲になられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災されました皆様とそのご家族、関係者の皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と平常の生活を取り戻すことができますよう、お祈り申し上げます。

さて、今年度も４０を超える当協会事業を無事に終えることができました。まだまだ雪多い３月、「つどーむ」での小中学生を中心に千名を超える参加者の下に開催された室内大会を皮切りに、４月連休からの記録会、ロードレース大会等々と９月末日までに毎週末はほぼ競技会が開催されました。ひた向きに競技に向かう選手たちの姿、真剣に審判業務をこなす審判員の姿、丁寧にコーチングされている指導者の姿を見るにつけ、会員各位の献身的なご支援ご努力に深く感じ入り、感謝の念を禁じ得ませんでした。会員の皆様はもとより、当協会を支えていただきました大勢の協賛各社の皆様や関係団体の皆様のご厚情、ご支援に深く感謝とお礼を申し上げます。

今年、大勢の選手が活躍した中から特筆すべき強く印象に残ったこととして、８月インドネシアで開催されたアジア大会において、当協会所属選手として育った５名もの選手たちが参加し活躍したことが挙げられます。日本選手権で御家瀬緑選手（恵庭北高、ハイテクＡＣ）が女子１００ｍで高校２年生として見事４位入賞を果たし、高校生で唯一アジア大会日本代表に選出され、４００ｍリレーで５位入賞を果たしました。そして、右代啓祐選手（札第一高、国士舘大教員）が10種競技で優勝、小池祐貴選手（立命館慶祥高、慶應大、ＡＮＡ）が２００ｍで優勝、城山正太郎選手（函大有斗高、東海大札幌、ゼンリン）が走幅跳で５位入賞、福島千里選手（ハイテクＡＣ、セイコー）が100ｍに出場と素晴らしい活躍を見せてくれました。また、全日本実業団選手権大会において小南拓人選手（札第一高、国士舘大、筑波銀行）がやり投げで80m18の日本歴代７位の好記録を出し優勝しています。中学、高校と選手たちを育てあげた指導者のご努力を称えるとともに、間近に迫った“２０２０東京”に向かって更なる活躍を期待しております。

一昨年に立ち上げた、２０２０東京オリンピックに向けた「札幌選手強化育成基金」もお陰様を持ちまして多くの個人の皆様やご協賛各社からご支援をいただいており、心より感謝申し上げます。強化練習や指導者支援、該当選手の大会支援等に使わせていただいており、札幌からオリンピック選手を輩出すべく、協会員一丸となって進んでまいります。

結びとなりますが、審判会員の皆様には次年度に向けて、審判技術の向上を目指し研鑽を積まれるようお願いするとともに、選手、指導者の皆様には、来シーズンの飛躍に向かって冬季練習をしっかりと積まれるようお願いいたします。３０年続いた「平成」の幕が下り、新たな元号のもとでも平和を願いながら、スポーツを通して「健康で豊かな社会づくり」に貢献して行けるよう、力を合わせ頑張っていこうではありませんか。

選手の成長を見守りながらご支援いただいた審判各位をはじめ、大勢のご支援いただいた皆様に改めまして心より感謝を申し上げ、ご挨拶と致します。

２０１８年度を振り返って

専務理事　玉　井　清　史

今年度残すところ１ヶ月となりました。予定されていました２８競技会のうち、札幌マラソンを除き終了することが出来ましたことは、参加された競技者の皆様、審判員の皆様、後援・協賛頂きました各団体のご協力の賜と心より感謝致します。

【各大会開催事業】
今年度は札幌陸協主催、主管が28大会、学連審判協力大会９大会が開催され、特に今年はシーズン当初の札幌ドームの芝張替えの影響や、地震や台風により川崎静一郎記念大会が延期、中学駅伝大会と札幌マラソンについては中止せざるを得なくなり、大会担当総務や審判員、関係諸団体には大変ご苦労をおかけしました。
今年度はＧＰシリーズに指定された南部記念大会が日中韓３ヵ国対抗戦との兼大会として実施され、ＭＧＣシリーズに指定された北海道マラソンとともに札幌陸協はもとより、全道の地方陸協審判の協力を得て実施されました。又、３ロードレースには１００名を超える学連審判員にご協力をいただき、実施することができました。特に北海道マラソンではＭＧＣ出場資格を男子４名、女子1名が取得、車いすマラソンでは久保恒造が日本最高記録を樹立。
反面、北海道マラソンと同時に行われたキッズラン、車いすショートレースにおいて誘導ミスがあり、選手、関係各位にご迷惑をおかけし誠に申し訳ありませんでした。このことを教訓とし今後の競技会運営に生かして参りたいと思います。

【強化事業と大会結果】10/20現在（敬称を略させて頂きました）
今年も多くの輝かしい結果が残されています。
男子では、城山正太郎（ゼンリン）が走幅跳で7m98でアジア大会５位日本選手権２位、全日本実業団で馬場友也（ハイテクＡＣ）100mで８位、インカレ対抗戦では110mH高橋佑輔（筑波大）７位、5000mローレンス-グレ（札幌学院大）８位、国体では村尾宥稀（明治大）10000mW６位、ｲﾝﾀｰﾊｲでは棒高跳で玉置大介（札幌南）が８位。
女子では島田雪菜（ﾊｲﾃｸAC）全日本実業団200m７位、京谷萌子（ﾊｲﾃｸAC）国体で走高跳８位、林 理沙（立命館大）がインカレと実業団学生対抗400mHで４位、御家瀬 緑（恵庭北）が100mで日本選手権４位、ｲﾝﾀｰﾊｲ１位、国体A ４位、アジア大会4×100mR５位、臼井文音(立命館慶祥)がｲﾝﾀｰﾊｲ100m３位、200m５位U20選手権100m２位、石堂陽奈(立命館慶祥)が100mで国体B ２位ｲﾝﾀｰﾊｲ８位U18選手権３位、芝田愛花(恵庭南)が100mHでｲﾝﾀｰﾊｲ３位国体A ２位、千葉桃子(立命館慶祥)国体B100mH６位、松田奈夏(立命館慶祥)が国体B走幅跳で３位、宮崎奈月(恵庭北) がｲﾝﾀｰﾊｲ走高跳８位、国体やり投４位また、ｲﾝﾀｰﾊｲ４×100mRで立命館慶祥高校が優勝した。中学生男子では北川広大(北都中)がｼﾞｭﾆｱｵﾘﾝﾋﾟｯｸ110mJHで７位、全国小学生大会で男子では舛田快理(簾舞小)５年生100mで８位、女子は６年生走幅跳で坂下琉菜(手稲鉄北)３位入賞した。
これは選手、各チームの指導者の努力、強化委員会による強化合宿、強化練習会によるものと感謝し、来年度の活躍も大いに期待したい。

【選手強化育成基金】について
昨年度から始まりました「選手育成基金」は多くのご協力企業や札幌陸協会員の皆様のご協力を得、今年度56万円の基金増資、延べ12名の強化選手に59万円の助成金をお渡ししました。(9月15日現在)
TOKYOｵﾘﾝﾋﾟｯｸへむけて、札幌所属選手の強化のため今後とも基金へのご協力をお願いします。

来年度（２０１９年）は札幌でW杯ラグビーが開催され、９月の競技日程が窮屈になりますが、変わらずのご援助、ご協力をお願いいたします。

ＳＡＰＰＯＲＯ「選手強化育成基金」募金ご協賛について

昨年度より引き続き、以下の趣旨にて、当協会は基金募集をさせて頂きました。その結果、多くの企業の皆様方より、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

ＳＡＰＰＯＲＯ「選手強化育成基金」募金ご協賛のお願い

「TOKYO 2020」の開催が決まり、56年ぶりに夏季オリンピックが日本で開催されることとなりました。1964年10月10日、昨日までの雨が止み、澄み渡る東京国立競技場の青空のもとで盛大に開催された開会式は、子供心に心躍らせ大きなインパクトと感動を与えてくれました。人種や宗教、歴史・文化を乗り越え、スポーツを通して一つになれる姿やトップ選手の躍動は鮮明に思い出として心をとらえて離れません。

「札幌から国際大会で活躍選手を」を目標に、未来を託す大勢の若者の活躍を願い、一般財団法人札幌陸上競技協会では、2020東京オリンピックに選手を輩出するために選手強化育成基金を計画しております。

つきましては、陸上競技を応援していただく企業をはじめ、陸上競技愛好者など多くの皆様のご理解とご支援が不可欠です、ＳＡＰＰＯＲＯ「選手強化育成基金」募金の趣旨をご理解いただき、多くの皆様方のご協力ご協賛をお願い申し上げます。

平成２９年８月吉日

実行委員長	品田　吉博	（一般財団法人札幌陸上競技協会会長）
副実行委員長	正垣　雅規	（学校法人産業技術学園理事）
副実行委員長	恩村　一郎	（一般財団法人札幌陸上競技協会副会長）
副実行委員長	志田　幸雄	（一般財団法人札幌陸上競技協会副会長）
委員	中村　宏之	（北海道ハイテクアスリートクラブ代表）
委員	赤松　幸広	（一般財団法人札幌陸上競技協会強化委員長）
監事	高野　洋史	（一般財団法人札幌陸上競技協会監事）
監事	里村美喜夫	（一般財団法人札幌陸上競技協会評議員）

＜ご協賛企業一覧＞

- 株式会社北海道日刊スポーツ新聞社
- 株式会社セコマ
- 株式会社エステム
- 一般財団法人北海道歴史文化財団
- 日本体育施設株式会社北海道営業所
- 北海道ハイテクノロジー専門学校
- 六花亭製菓株式会社
- 日本栄養食品株式会社
- 北海道印刷企画株式会社
- 株式会社ツルハ
- ミズノ株式会社
- 株式会社Ｈａｒａｐｅｃｏ
- 一般財団法人さっぽろ健康スポーツ財団
- 株式会社北海道新聞社
- 株式会社アールビーズ
- 奥アンツーカ株式会社東京支店
- 株式会社アミノアップ化学
- 社会医療法人松田整形外科記念病院
- ホクレン農業協同組合連合会
- 長谷川体育施設株式会社北海道支店
- アシックスジャパン株式会社
- 医療法人北海道整形外科記念病院
- 株式会社レンタコム北海道
- 株式会社プロサポート物流

順不同24社

＜ご協賛個人一覧＞

・山田　亨	・薄　昇	・楯石　英雄	・藤石　文平
・玉井　清史	・品田　吉博	・志田　幸雄	・安岡　行雄
・志田　光瑞	・斎藤　一幸	・蓑嶋　和央	・品田　吉博
・澤田　義盛	・世良田弘治	・中村冨士雄	・中村　宏之

順不同16名

平成30年11月10日現在

SAPPORO「選手強化育成基金」助成者一覧

平成30年10月９日現在

	氏　名	所　属	内　容
1	城山正太郎	ゼンリン	日本選手権　走幅跳第2位、アジア大会　走幅跳日本代表
2	御家瀬　緑	恵庭北高校	日本選手権　１００m第4位、アジア大会　4×１００mR日本代表 高校総体　１００m優勝・走幅跳第6位、 国体　少年A１００m第4位・4×１００mR第3位
3	馬場　友也	北海道ハイテクＡＣ	日本選手権　１００m出場
4	小松　陽平	東海大学	日本選手権　１５００m出場
5	島田　雪菜	北海道ハイテクＡＣ	日本選手権　１００m・２００m出場
6	井越　朱梨	日本体育大学	日本選手権　２００m出場
7	玉置菜々子	札幌啓成高校	日本選手権　１００mH出場
8	芝田　愛花	恵庭南高校	日本選手権　１００mH出場、高校総体　１００mH第3位 国体　少年A１００mH第2位
9	林　　理紗	立命館大学	日本選手権　４００mH出場　　日本学生対校　４００mH第4位
10	吉田　梨緒	立命館慶祥高校	日本選手権　走幅跳出場、高校総体　4×１００mR優勝
11	玉置　大介	札幌南高校	高校総体　棒高跳第8位
12	宮崎　奈月	恵庭北高校	高校総体　走高跳第8位　　国体　少年共通やり投第4位
13	臼井　文音	立命館慶祥高校	高校総体　4×１００mR優勝・１００m第3位・２００m第5位 国体　4×１００mR第3位
14	石堂　陽奈	立命館慶祥高校	高校総体　4×１００mR優勝・１００m第8位 国体　少年B１００m第2位・4×１００mR第3位
15	松田　奈夏	立命館慶祥高校	高校総体　4×１００mR優勝
16	村尾　宥稀	明治大学	国体　成年１００００mW第6位
17	ﾛｰﾚﾝｽ･ｸﾞﾚ	札幌学院大学	日本学生対校　５０００m第8位
18	高橋　佑輔	筑波大学	日本学生対校　１１０mH第7位
19	京谷　萌子	北海道ハイテクＡＣ	国体　成年走高跳第8位
20	千葉　桃子	立命館慶祥高校	国体　少年B１００mH第6位

第６回北海道ハイテクＡＣ杯陸上競技選手権大会が開催されました

～ご参加いただいた皆様、本大会ご協賛各社様、大会関係者様、心より感謝申し上げます。～

平成30年9月30日(日)に札幌市厚別公園競技場にて、悪天候が予想された中、天候については何とか曇りで推移し、今年度も小学生種目からマスターズ種目までのカテゴリーによって大会を開催され、すべてのカテゴリーのアスリート育成に寄与する大会となりました。

大会では、第４回大会にも出場した韓国のＫｉｍ　Ｍｉｎｊｉ選手が再び参加し、高校・一般女子200mで優勝しました。

また、高校・一般女子三段跳では、北海道ハイテクＡＣ所属の竹田小百合選手の引退試合となり、競技人生に別れを告げる大会となりました。

最優秀選手には、高校・一般女子400mにて大会新記録で優勝したアシィしおり選手（北海道栄高校）が選ばれました。大会終了に際しまして、多くの皆様にご参加及び大会運営にご協力をいただき誠にありがとうございました。

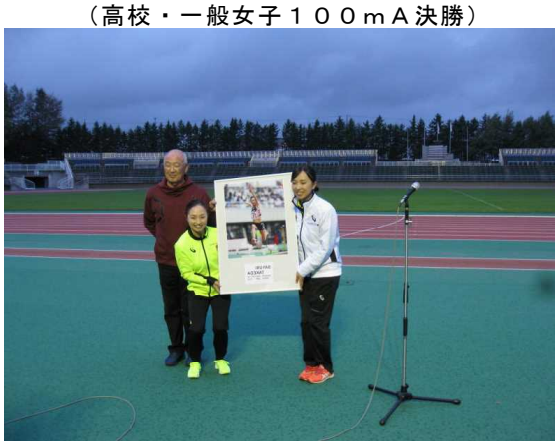
（宮川藤一郎理事長様〔産業技術学園〕ご挨拶）

（品田吉博会長〔一財札幌陸協〕ご挨拶）

（宮坂楓選手（ニッパツ）高校・一般女子三段跳）

（高校・一般女子１００ｍＡ決勝）

（表彰者全体写真）



（竹田小百合選手（北海道ハイテクＡＣ）引退式）

２０１７年度　一般財団法人札幌陸上競技協会　栄章授章式

平成３０年７月２２日（日）に開催された第８３回札幌陸上競技選手権大会において２０１７年度の当協会栄章受賞式が札幌市円山陸上競技場にて行われました。

表彰式に参加頂いた方は、それぞれ功労章・審判功績章・指導者章・特別章・優秀選手章・新記録章・奨励選手章を受賞されました。受賞に際して、大変おめでとうございます。益々のご活躍のことを当協会といたしましては、お祈り申し上げます。

記録室　国際大会・全国大会入賞者

■第１８回アジア競技
（ジャカルタ・インドネシア　8/25~8/30）

○男子走幅跳　　第５位　7m98(+0.4)
　城山正太郎（ゼンリン）
○女子4×100mR　第５位　44.93
　１走　御家瀬　緑（恵庭北高）

■2018日本学生陸上個人選手権
（神奈川・Shonan BMW スタジアム平塚　6/15~6/17）

○男子1500m　　第２位　3:52.25
　小松　陽平（東海大３）
○男子110mH　　第５位　14.03(+0.9)
　高橋　佑輔（筑波大４）
○男子10000mW 第５位　40:54.21
　村尾　宥稀（明治大２）
○女子400mH　　第３位　1:00.17
　林　　理紗（立命館大３）

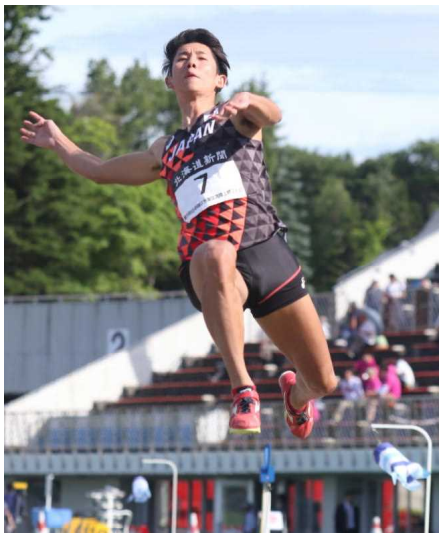
■第７１回インターハイ（三重・三重県営8/2~8/6）

○女子100m　　優勝　11.74(0.0)
**　御家瀬　緑（恵庭北２）**
○女子4×100mR　優勝　45.68
**　立命館慶祥**
**　吉田　梨緒（立命館慶祥３）**
**　臼井　文音（立命館慶祥３）**
**　石堂　陽奈（立命館慶祥１）**
**　松田　奈夏（立命館慶祥１）**
○女子100m　　第３位　11.77(0.0)
　臼井　文音（立命館慶祥３）
○女子100m　　第８位　11.93(0.0)
　石堂　陽奈（立命館慶祥１）
○女子200m　　第５位　24.11(+0.8)
　臼井　文音（立命館慶祥３）
○女子100mH　第３位　13.68(-0.3)
　芝田　愛花（恵庭南３）
○女子走幅跳　第６位　5m85(-0.2)
　御家瀬　緑（恵庭北２）
○女子走高跳　第８位　1m66
　宮崎　奈月（恵庭北３）
○男子棒高跳　第８位　4m80
　玉置　大介（札幌南２）

女子4×100mR 御家瀬　緑選手（恵庭北高）

■第１０２回日本選手権（山口・維新　6/22~6/24）

○男子走幅跳　第２位　7m95(+1.3)
　城山正太郎（ゼンリン）
○女子100m　　第４位　11.74(+0.8)
　御家瀬　緑（恵庭北高）



男子走幅跳　城山正太郎選手（ゼンリン）

女子100m優勝　御家瀬緑選手（恵庭北高）右側

女子４×100ｍＲ優勝　立命館慶祥高

女子100mH決勝　芝田愛花選手（恵庭南高）

■第３４回全国小学生交流（神奈川・日産 8/18）

○男子100ｍ５年　第８位　13.56(+0.6)
　舛田　快理（MJAC）
○女子走幅跳　　第３位　4m75(-1.3)
　坂下　琉菜（札幌手稲鉄北小６）

■第４５回全日本中学選手権
（岡山・シティライトスタジアム 8/19~8/21）

○女子走高跳　第４位　1m65
　水口　爽（札幌青葉３）

■第６回全国高校選抜（大阪・長居第二8/25~8/26）

○女子スプリント・トライアスロン(60m-150m-300m)
**　優　勝　3114点(7.55-18.01-38.37)**
**　臼井　文音（立命館慶祥３）**
○男子スプリント・トライアスロン(60m-150m-300m)
　第３位　2947点(6.81-16.25-34.58)
　安田　凌真（北海３）
　第８位　2831点(7.09-16.40-33.91)
　杉林　大地（東海大札幌３）
○男子3000m　第７位　8.36.17
　杉本　龍陽（札幌日大３）
○男子300ｍＨ　第７位　37.33
　水口　海（立命館慶祥３）
○女子四種競技　第４位　2827点
　玉置菜々子（札幌啓成高３）

■第87回日本学生対抗選手権
（神奈川・等々力 9/6~9/9）

○男子5000m　第８位　14:22.58
　ローレンス・グレ（札幌学院大１）
○男子110mH　第７位　14.12(-1.1)
　高橋　佑輔（筑波大４）
○女子400mH　第４位　59.70
　林　理紗（立命館大３）

■第66回全日本実業団対抗選手権
（大阪・ヤンマースタジアム長居　9/21~9/23）

○男子走幅跳 第２位　7m73(-0.4)
　城山正太郎（ゼンリン）
○女子走高跳 第６位　1m65
　京谷　萌子（道ハイテクＡＣ）
○男子100ｍ　第８位 10.61(+0.0)
　馬場　友也（道ハイテクＡＣ）
○女子200ｍ　第８位 24.64(+0.2)
　島田　雪菜（道ハイテクＡＣ）

■第73回国民体育大会（福井・福井県営 10/5~10/9）

○少年A女子100ｍH 第２位 13.31(+2.5)
　芝田　愛花（恵庭南高３）
○少年B女子100ｍ 第２位　12.55(-4.4)
　石堂　陽奈（立命館慶祥高１）
○少年B女子走幅跳　第３位 5m83(+1.0)
　松田　奈夏（立命館慶祥高１）
○女子4×100ｍR　第３位　45.34
　北海道
　武田　美里（北翔大４）
　臼井　文音（立命館慶祥３）
　石堂　陽奈（立命館慶祥１）
　御家瀬　緑（恵庭北２）
○少年A女子100ｍ 第４位　11.89(-0.1)
　御家瀬　緑（恵庭北高２）
○少年共通女子やり投　第４位　49m53
　宮崎　奈月（恵庭北高３）
○少年B女子100ｍ 第６位　13.84(+2.0)
　千葉　桃花（立命館慶祥高１）
○成年男子10000ｍW 第６位　40:40.18
　村尾　宥稀（明治大２）
○成年女子走高跳　第８位　1m72
　京谷　萌子（道ハイテクＡＣ）

■第34回U20日本陸上競技選手権大会
第12回U18日本陸上競技選手権大会（愛知・瑞穂　10/20~10/21）

○U20女子100ｍ　第２位　11.67(+1.8)
　臼井　文音（立命館慶祥３）
○U20女子100ｍH 第２位　13.57(-1.6)
　芝田　愛花（恵庭南高３）
○U20女子200ｍ　第３位　24.22(+1.5)
　臼井　文音（立命館慶祥３）
○U18女子100ｍ　第３位　11.68(+2.5)
　石堂 陽奈（立命館慶祥高１）
○U20男子400ｍ　第４位　47.85
　吉田　達也（東海大北海道２）
○U20男子400ｍH 第８位　52.50
　田邊ジョー（東京学芸大１）

※写真は、報知新聞社様よりご提供

（Ｃ）日刊スポーツ新聞社

日刊スポーツ　2018年(平成30年)8月4日　土曜日　6版北　(28)　北海道

陸上女子100 道勢2年生 初 御家瀬V

全国高校総体

◇3日◇陸上ほか◇三重・三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場ほか

陸上の女子100㍍は、日本選手権4位でアジア大会日本代表の御家瀬(みかせ)緑(恵庭北2年)が初優勝した。8人中4人が北海道勢となった決勝を11秒74で制した。同種目の覇者は道勢4人目だが、2年生女王は初めて。昨年2位の臼井文音(立命館慶祥3年)は3位。表彰台に2人同時に立つのは、北海道勢初の快挙だ

11秒74「自信持ってアジア大会に」

臼井3位 2人同時表彰台も初

半分4人北海道

抑えていた感情が涙に変わった。レース後、優勝を決めた御家瀬は派手なガッツポーズも、歓喜の声を上げることもなかった。電光掲示板で順位を確認すると、「目標としていたインターハイで優勝できて本当にうれしいです」。マイクを向けられ、声を震わせ喜びをかみしめた。

8人中4人を道勢が占めた女子100㍍決勝。準決勝の結果から御家瀬はレーンの一番内側だっ

0秒03届かず涙

男女計５人目

北海道 HOKKAIDO

北照ナイン八丈1人だけの"チームメート"に夏1勝を

旭大高 平沢佐久長聖打たせて取る

ジュニアベースボールクリニック

日本ハムの新企画、「ジュニアベースボールクリニック」。第1回は中田翔選手(29)が登場です。

おちるところよそうしてフライは"おへそ"でみよう

たくさんとってコツをつかもう

U21選出三好リーグ戦1号で弾みを

カー札幌男子 初陣は連勝発進

情報宅配便

札幌通信

（平成３０年８月４日付け記事　日刊スポーツ新聞社様ご提供）

（C）日刊スポーツ新聞社

日刊スポーツ　2018年（平成30年）8月5日　日曜日　7版北　（28）　北海道

陸上400リレーで 立命館慶祥 初日本一

道高校新45秒68

全国高校総体

◇4日◇陸上ほか◇三重・三重交通Gスポーツの杜伊勢陸上競技場ほか

陸上の女子400メートルリレーは、立命館慶祥が45秒68の北海道高校記録で初優勝を果たした。道勢の優勝は07年の恵庭北以来11年ぶり3度目。100メートル3位の臼井文音（3年）、8位の石堂陽奈（1年）の11秒台2選手に加え、12秒台前半の吉田梨緒（3年）松田奈夏（1年）のメンバーで同校としては男女個人種目も含め初の全国大会制覇を成し遂げた。

道勢11年ぶり

陸上【女子】▽400メートルリレー ❶立命館慶祥（吉田、臼井、石堂、松田）45秒68

立命館慶祥の4人のとびきりの笑顔が夏空にはじけた。400メートルリレーで全国一となった4人の喜びを、臼井の言葉が表していた。「4人で（優勝を）取った分、喜びも何倍にもなります」。2日の予選で記録した道高校記録を0秒20縮める45秒68での優勝をかみしめた。

チームのために結束した。1走吉田は直前まで走り幅跳びに出場していた。昨年総体3位で表彰台も狙えたが、この日は20人中19位。悔しさを押し殺して招集5分前にリレーメンバーの輪に加わった。「切りかえてとにかく速く次に渡す。リレーは一生懸命練習してきたから」。抜群のスタートで飛び出し、臼井に渡した。

2走臼井は前日、3年間の集大成として臨んだ100メートルで3位だった。全国大会表彰台の常連だが優勝には届かなかった。「（吉田）梨緒が良い順位で持ってきてくれた。優勝しか考えていなかった」。上位で後輩にバトンを託した。

走り幅欠場し

3走石堂と4走松田はこの日出場予定の走り幅跳びを日裏徹也監督（36）の指示で欠場した。「先輩方が悔しい思いをしていた。リレーにかけていたので負けられない」。石堂がトップに立ち、松田がそのままフィニッシュした。

3年2人、1年2人。4月の結成以来、8大会同一メンバーでリレーを磨いてきた。同校初の全国タイトルを手にした日裏監督は「個性の強い子たちばかりで心配したけど、最後は団結してくれた」と涙を浮かべた。エースを2走、4走に起用するチームが多い中で、100メートル11秒台の臼井を2走、石堂はカーブが得意なため3走に配置した。リレー練習は1日1本に制限し「失敗できない環境をつくる」（日裏監督）ことで常に本番を意識させた。

レース当日の朝。4人はそれぞれの両親から伊勢神宮の「健康健脚御守」をもらった。優勝から約1時間後、表彰を終え家族と笑顔で写真に納まった。翌日からは個人の戦いが再び始まるが、チームでつかんだ勲章が、この先の自信につながる。【浅水友輝】

◆4走の松田　優勝を目指してきたけど、まだ実感が湧かない。（3日誕生日の臼井）文音先輩にプレゼントができました。

女子400メートルリレー　喜ぶ立命館慶祥のリレーメンバー。（撮影・浅水友輝）㊨立命館慶祥は2走臼井から3走石堂へバトンをつなぐ

◆立命館慶祥リレー走者の比較表◆

よみがな	よしだ・りお	うすい・あやね	いしどう・ひな	まつだ・なな
名前	吉田梨緒	臼井文音	石堂陽奈	松田奈夏
走順	1走	2走	3走	4走
生年月日（学年）	00・8・15❸	00・8・3❸	02・4・15❶	02・8・16❶
出身	浦河町	帯広市	八雲町	深川市
競技開始	浦河野深小3	帯広豊成小3	八雲小3	深川一已小2
身長	156センチ	163センチ	164センチ	162センチ
趣味	映画鑑賞	音楽鑑賞	音楽鑑賞	音楽鑑賞

48年初代女王も道から
寺田の07年恵庭北以来

◆北海道勢の女子400メートルリレー優勝07年恵庭北（竹田、寺田、奥塚、加藤）以来、11年ぶり3度目。当時エース格の寺田明日香は100メートル、100メートル障害と合わせて3冠に輝いた。48年の第1回大会では札幌第一が制している。

陸上【女子】▽走り幅跳び ❶高良彩花（兵庫・園田学園）6メートル14 ❻御家瀬（恵庭北）5メートル85

◆女子100メートル優勝に続き走り幅跳びで6位の御家瀬緑（恵庭北2年）　走り幅跳びで入賞を狙っていたのでうれしい。6メートル台の記録を狙っていたけど、今の実力ではこのぐらいです。

北海道　札山の手8強逃す

札東商進撃止まる

旭大高 中筋 4投手別ミット駆使

甲子園きょう開幕

北照 源「輝く」目指すぞ凱旋打

ジェイ全戦ゴール伸ばす

旭大高端場監督「投手陣がカギ」

大阪桐蔭背番「14」 奥田 岡崎に刺激

板本手負いも2位

竹内 宮の森サマー 夏開幕連勝

情報宅配便

（平成３０年８月５日付け記事　日刊スポーツ新聞社様ご提供）

2018年（平成30年）9月3日（月曜日）　　スポーツ報知

御家瀬（みかせ）　100メートル11秒5切らないと

恵庭北高2年

ほっかいど

ア大会400メートルリレー5位

2日に閉幕したアジア大会（ジャカルタ・陸上）本道高校選手として初出場し、女子400メートルリレーで5位入賞し貢献した御家瀬（みかせ）緑（17＝恵庭北高2年＝が8月31日に帰国。2日に練習を再開した。初の海外での大会を強烈に、来月5日からは第3回世界陸上（カタール・ドーハ）など年後の東京五輪の代表選考を意識した。

世界との距離を痛感

「午前10時の暑い時間、インドネシアのスタジアムで戦った。御家瀬さんを含めた御家瀬の表情には、新たな挑戦に向かっていく。8月30日のアジア大会女子400メートルリレーで、日本はエースの・福島千里（30）がキレッケ故障で欠場する中、御家瀬（17＝恵庭北高2年）を含めた4人は、目標のメダルに届かなかったが、表彰台を目指した。緊張もせず楽しく、力は発揮できたと思います」と振り返った。

初の国際大会で、収穫は大きかった。42秒73の大会新で優勝したバレーンのエディオン・オディオ（22＝同国）も制していた。「体の自分も体を作り直し、100メートル11秒5を切らないと、国際舞台では戦えないと感じました」。男子200メートルで金メダルを獲得した同学・小池佑貴（23＝大ベル＝）ついては、「力強く走れと最後尾に感激。小牧さんから、（足を）流されないように」と気づかった。

アジア大会女子400メートルリレーで、第2位となった御家瀬

アジア大会男子400メートルリレー金メダルを獲得した手に、さらなる飛躍を誓う御家瀬

本気で体力、筋力強化に力入れないといけない

録に聞く

―初の海外大会として臨んだアジア大会の感想は？

御家瀬「目標のメダルに届かず残念ですが、緊張せず、自分の力は出し切れたと思います。安倍貴子先生（恵庭北高陸上部顧問）が現地まで応援に来てくれたことも心強かったです」

―大会に入り、福島さんが故障欠場。不安はありませんでしたか？

「他の先輩たちが盛り上げ、励ましてくれたので、心配なくレースに集中できました」

―4×100メートルリレー、中国などの強豪選手を見て感じたことは？

「体が自分とは全く違う。これから、本気で体力、筋力強化に力を入れなくてはいけないと感じました。タイムも100メートルを11秒5を切らないと、国際舞台で戦えないと肌で感じました」

―男子短距離では日本勢が200メートルリレー金の日本チームの…

「世界のトップを狙う熱いチームワークを感じました。自信、オーラが噴出し印象…200メートルでは、小池佑貴の小…金メダル。

「昨年の国体を機に、お会いし…激励を受けてきたし、同じ道…で誇りに思います。東京五輪…ステージに立てたら最高です」

（平成３０年９月３日付け記事　報知新聞社様ご提供）

報知新聞社後援

第6回北海道ハイテクAC杯陸上選手権

（30日・札幌厚別公園陸上競技場）

竹田有終3位

この大会の女子三段跳びで現役引退した竹田、最後の跳躍

女子三段跳び

「感謝の気持ち」

女子三段跳びで、道記録（13メートル25）保持者の竹田小百合（29）＝北海道ハイテクAC＝が30日のハイテクAC杯で、現役生活にピリオドを打った。この日、直前練習で腰を痛め、テーピングを施し最後の2回のみの跳躍。最後の試技で11メートル31を跳び3位に入った竹田は「ここまで現役を続けてこられたのは、周囲の応援があったから。今は感謝の気持ちでいっぱいです」と感激の表情で話した。

函館出身。恵庭北高2年で、走り幅跳びから転向。日本ジュニア選手権制覇、岩見沢教育大で08、10年に日本インカレ優勝。11年の日本選手権を初制覇するなど北海道女子三段跳びの先駆者として活躍を重ねた。国際大会でも09年東アジア大会（香港）銀、11年のアジア選手権（神戸）にも出場（11位）した。

現在は、登別青嶺高教師で、陸上部顧問も務める。「自分が陸上で学んだ、努力の継続、あきらめない心を今度は子どもたちに伝えていきたい」と第2の陸上人生に意欲を見せた。（小林　聖孝）

100メートル

町井姉弟がV

○…高校・一般女子100メートルで町井愛海（あみ）（恵庭北高2年）が12秒29、中学男子100メートルで弟・大城（たいき）（北斗浜分中3年）が11秒15で優勝し、姉弟でアベックVを決めた。弟は今夏の全国中学200メートル覇者。姉も全国中学で15年に100メートル、16年に走り幅跳びを制した。「弟の活躍が刺激、来年は高校総体Vを目指したい」という姉に、弟も「姉を目標に来春からの高校生活では、短距離と走り幅跳びで日本一を目指したい」と力を込めた。

100メートルできょうだい優勝した姉の町井愛海と弟・大城

（平成３０年１０月１日付け記事　報知新聞社様ご提供）

訃　　報

この度、当協会にご功績のあった方々がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

元理事　山　岸　精太郎　様　８月３１日御逝去
元顧問　宮　田　貴美人　様　９月１２日御逝去

発行　一般財団法人札幌陸上競技協会
広　報　委　員　会
〒064-0931　札幌市中央区中島公園1番5号
札幌市中島体育センター内
電話・FAX　：(011)532-2471
http://jaaf-sapporo.jp/